

促成ナスのロックウール栽培における栽植密度と仕立て法

園芸試験場

1 取り上げた理由

宮城県内では、県北地域を中心にロックウール耕ナスの栽培面積が増加している（平成9年0.8ha，平成12年1.76ha）。これまでに本県の気象条件に適する播種期，定植時の葉数について明らかにし，葉柄汁中イオン濃度を指標とする栄養診断技術を確立した。今回，栽植密度と仕立て本数について検討し成果が得られたので普及技術とする。

2 普及技術

1) 栽植様式は株間33cm 主枝2本仕立て（1,684株/10a）とする。

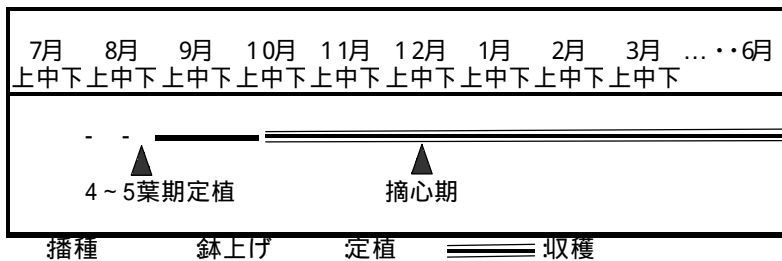
現行の株間45cm，3本仕立て（1,235株/10a）より収量が高くなる。

3 利活用の留意点

1) 品種は「式部」とする。

2) 株間25cm，1本仕立て（2,222株/10a）では収量は高くなるものの，奇形果の発生が多くなりやすい。

3) 栽培管理，培養液管理については「普及に移す技術（第75号）」を参照のこと。



(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸栽培部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

高収益養液栽培技術の確立 (平成11~12年)

2) 参考データ

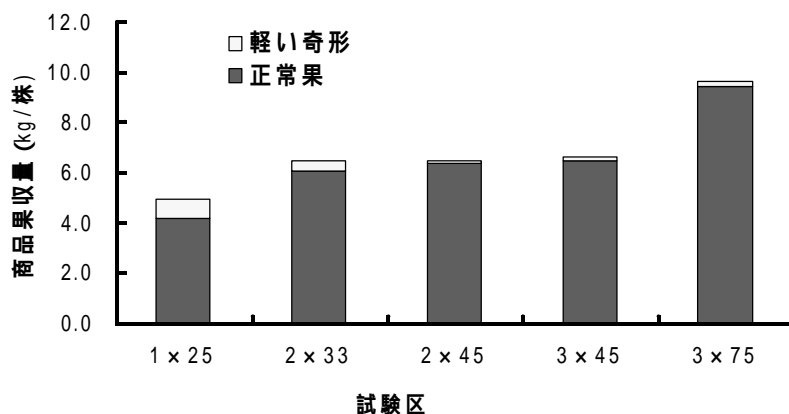


図 - 1 株間と仕立て本数が株当たり商品果収量に及ぼす影響 (1999/10~2000/6)

1 × 25: 株間25cm, 1本仕立て, 2 × 33: 株間33cm, 2本仕立て

2 × 45: 株間45cm, 2本仕立て, 3 × 45: 株間45cm, 3本仕立て,

3 × 75: 株間75cm, 3本仕立て

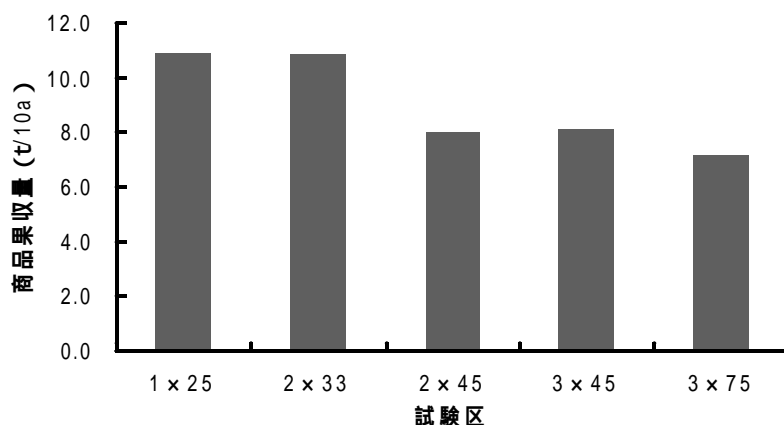


図 - 2 株間と仕立て本数が10a当たり商品果収量に及ぼす影響 (1999/10~2000/6)

[耕種概要]

(1)栽培方式: ロックウールマット (90 × 30 × 7.5cm, 日東紡製) を栽培ベッドとする非循環式ロックウール栽培

(2)栽植様式: 畝間 180cm 株間, 仕立て方法は上記図の通り。

(3)播種: 1999/8/11, 定植: 1999/9/8

(4)培養液管理: 大塚 A 処方を用い, タイマー制御のポンプとドリップタイプの灌水チューブで給液した。給液量は1日当たり1~3liter/株程度として, 数回に分けて供給した。培養液濃度は EC1.2dS/m。

(5)収量調査: 80g 程度の果実を週3回収穫

3) 発表論文等

なし